

次期環境基本計画の論点と対応の方向性

1 分野間のシナジー・トレードオフ

<これまでの主な指摘>

- ・ 脱炭素・生物多様性・資源循環の各分野の連携は環境基本計画の役割。
- ・ 地球温暖化対策の適応策はネイチャーポジティブとのインタラクションが含まれる。
- ・ 太陽光発電と生物や景観とのトレードオフをどう考えるかという観点も必要。

- 分野間のシナジーについては、「分野間連携による同時課題解決」を方向性で明確にするとともに、分野横断の具体的行動（主体別指針）の作成・推進をシンボルに進めていく。
- トレードオフが課題となる空間的観点（ゾーニング）については、土地の種類別に分野別での機能を明確にしていこうところから始め、エリアのそれぞれのゾーンに応じた環境の機能の向上を図ることを、計画の施策に位置づける。

2 ひと・しくみづくり（環境教育・学習 等）

<これまでの主な指摘>

- ・ 授業で生物多様性や循環型社会のために地場産のものを購入するといった身近な行動で自分ができることがあると学生に伝え、初めてそのようなことを考えたという声を聞く。
- ・ 学校教育も大事だが、喫緊の課題の地球温暖化対策では現役世代へのアプローチも重要。
- ・ もっと知ってもらいたい京都環境賞の取組があるが周知が足りていない。
- ・ 市民に対してどうやってわかりやすく伝えることができるのか考えることが一番重要。
- ・ 情報をもっとクリアに。またポイント制度を取り入れてはどうか。（WS・市民対話会議）

- 現行計画の課題及び主な指摘を踏まえ、以下の観点で「ひと・しくみづくり」を推進する。

具体的行動の明確化

- ・ 現行計画の環境配慮指針が抽象的な内容であるため、市民、事業者、入浴者それぞれの具体的行動を分野横断的に掲げる「主体別指針」を別途作成する。
 - （市民）生物多様性の取組も含み3分野を横断する代表的な具体的行動を示し、行動を推進するための事業を進めていく。
 - （事業者）脱炭素・資源循環・生物多様性などの取組を難易度に応じて示すとともに、事業者にとって環境への取組が、リスクでもあるがビジネスのチャンスでもあるというメッセージを打ち出す。
 - （入浴者）環境面の最低限のモラルから、宿泊地での環境配慮行動、寄付までを打ち出し、情報発信の際は、ホテル等の事業者との連携も実施する。

情報発信の充実、双方向コミュニケーション促進

- ・ 分野横断の施策に「情報発信の充実」を掲げ、市民の皆様は、環境問題に取り組む必要性や、取組の効果など、動機づけとなる情報を発信し、認知していただく。
- ・ 加えて、「双方向コミュニケーション促進」を掲げることで、行政側からだけでなく、各主体側（市民等）から情報発信することや、取組に参加することを促進していく。

インセンティブの付与

- ・ サーキュラーエコノミーへの対応をはじめとした事業者の環境に配慮する経済活動や、市民にとっての行動の見える化など行動につながるインセンティブを検討していく。

環境教育・学習の推進

- ・ 将来世代のことも考え、2050年の将来像を実現するために今からできること（具体的行動）を考え、取り組み、実現していく力を養う環境教育・学習を進めていく。
- ・ そうした施策・取組の推進を図るため、環境教育・学習基本指針の改定を検討する。

3 ウェルビーイングの観点を踏まえた主観的指標

＜これまでの主な指摘＞

- ・ 今回の環境基本計画改定は、環境政策を通じたウェルビーイングの向上が論点の1つ。
- ・ ウェルビーイングはすぐに達成できるものでないことから、それを考慮した主観的指標は2050年、客観的指標は2030年と方向性を示すのはよい。
- ・ 環境に携わることがウェルビーイングに繋がることを示すことが重要。
- ・ ウェルビーイングの達成が最上位目標であればウェルビーイング自体を聞く必要がある。
- ・ 京都環境賞の応募取組事例では、自らの楽しみと環境取組が合致していることが多い。この点は、ウェルビーイングを掲げながら環境保全をしていく取組のヒントになる。

- 2050年をイメージした長期的な目標（目指す将来像）の実現につながる状況を設定し、これまで同様アンケート調査により把握する。
- 指標は、ウェルビーイングそのものを測るものではなく、以下の観点で本市が捉えるウェルビーイングの向上につながる内容を聞く。
 - ・ ウェルビーイングについて、環境は重要な要素。
 - ・ ウェルビーイングは、本人の幸せだけでなく、他者や場の幸せも含む。また、現時点だけでなく、次の世代にとっての幸福や課題解決にもつながる。

① ＜新規＞ウェルビーイング向上の観点も踏まえた※環境全体での指標を設定する。

目指す将来像に掲げる「自然」とその良さの実感	・ あなたは、京都の身近な自然環境が守られ、受け継がれていると感じますか。 ・ あなたには、日々の暮らしや余暇の中で自然を感じる機会がありますか。
将来・次の世代に向けた取組	・ あなたは、喫緊の環境問題に対して、将来世代のことも考えた環境の取組が進んでいると感じますか。
楽しみ・前向き（本人の幸せと行動）	・ あなたには、楽しみながら前向きに取り組んでいる「環境によいこと」がありますか。
他者や場のあり方（事業者・滞在者）	・ あなたは、京都が環境を考えた経営・取組を行う企業を評価するまちになっていると感じますか。 ・ あなたは、京都に来る観光客が、京都の環境を良くすることに貢献したり、京都の環境の魅力を高めるための役割を担っていると感じますか。

② ＜継続＞従前の分野別の指標についても一部改良のうえ、継続して把握を進める。

「ひと・しくみづくり」の施策	・ あなたは、環境をよくするための具体的な行動や参加につながるような、情報が身近に得られていると感じますか。 ・ あなたは、環境を良くする行動につながる、環境教育・学習の機会が広がっていると感じますか。
その他個別分野の施策	・ あなたは、空気や身近な河川の水がきれいに保たれていると感じますか。 など

4 その他

- 計画は、行政施策の根拠となるものとして庁内共有を図れるものとしながら、環境保全の理念を市民や事業者の皆様へ伝え、共有するという観点も考慮してまとめる。
- 各分野の施策については、先日(7/24)の審議会本会で示した資料を基に、審議会での意見等を踏まえ、現在、各部会で検討を進めている。